

埼玉ブロック通信 2023年3月号

～ 今月はケアマネの会あげお（上尾市） 佐々木会長にインタビュー

ケアマネさんから見た！『必要とされる福祉用具専門相談員』
我々福祉用具専門相談員は専門職として何を磨き、どう研鑽していけば良いのか？
必要とされる福祉用具専門相談員についてインタビューレポートを配信します。



佐々木 伸介氏 会長
▶ケアマネの会あげお
▶居宅介護支援事業所
上尾中央総合病院 管理者

説得ではなく、納得

佐々木さん
相談援助業務は、説得ではない。
利用者さんやご家族が納得していただくまで
ケースに合わせてきちんとご説明しご納得して
いただく事が重要。

福祉用具専門相談員に感謝

福祉用具専門相談員にはいつも感謝している。

①素早い対応

ケアマネジャーがご利用者に提案した環境整備に
対し、間髪入れず、正確かつ迅速に対応いただく事
でご利用者から「こんなに短時間でとても便利に
なった」という感激の言葉を頂くことがよくある。
福祉用具専門相談員の対応が利用者さんとケアマ
ネジャーとの信頼関係を高めてくれて、サービス利
用の納得感醸成に繋がっているケースは多い。

②柔軟な対応

ご利用者さんに口頭でサービスを説明しても
イメージが出来ず納得いただけなかったケースもあるが、
例えば商品をデモ対応して下さる事で、具体的な
利用イメージが持て、利用者さんが納得してサービ
ス利用を頂く事ができる。
こういった対応が利用者さんとの信頼関係の構築
に繋がっている。

業務を続けるモチベーション

質問（福祉用具専門相談員（佐藤））
急な依頼や柔軟な対応を行う事が利用者さんやケアマネさんに
とって重要な意味を持つ事が良くわかりました。
我々も納得して業務を行う上で、長く続ける為にどんな事が必要なの
でしょうか？

佐々木さん

日々色々な事がありモチベーションがアップダウンするのは
人間誰しも同じ。自身を俯瞰し、セルフマネジメントを
どうやるかという事が重要だと思います。
私の場合は主に3つの取り組みを行っています。

①業務の意義を知る

日々の業務に追われていると誰でも視野や、視座が段々狭くなる。
・そもそも我々の業務はどのような意味があるのか、
・世の中から何を期待されているのか、
・今後、何を成し遂げなければならないのか、
と大きな視座に立ち返る事。
私の場合は法令を読み込んだり介護保険審議会の資料や議事内容を
確認する事で、現在取り組んでいる業務の意味を再認識し、初心に戻
り頑張ろうと思う事が出来ています。

②自分だから出来る事を作る

法令で決められた業務や社内での規定をしっかり守った上で、
自分なりの関わり方、コミュニケーションの取り方を
業務を常に工夫してみる事。
その結果が感謝に繋がれば自分の満足度も向上する。

③変化の為の時間をルーティン化

定期的に自身の変化に繋がる行動をルーティンに取り込んでおく。
1日10分でも①②のような普段の業務と異なる目線で考える事で
自身のマインド形成に繋がります。

最後に

利用者さんに納得してサービス利用して頂く為に
自分自身が仕事に対して常に納得していきたい。
ケアマネジャーも福祉用具専門相談員も
仕事に納得して長く仕事を続けられるように
悩みながらもお互い良い関係性を
継続していきたいですね。

【発行元】
ふくせん埼玉
【問い合わせ先】
担当:小倉
(株)ヤマシタ

J-ogura@yco.co.jp